

地域とともに....

名寄市立大学開学

平成18年4月



新たな春を迎えて、
先人の築いた財産を次の世代に。

JR札幌駅から特急列車で北へ2時間あまり。四月を迎えてなお雪が残る名寄の地に、道内をはじめ全国各地から、住み慣れた街を離れてこの地に学びの場を求めて集まった学生たちが、新たな生活を迎えます。

名寄市立大学1期生たちの新たな旅立ちの始まり、それは同時に、新「名寄市」の新たな歩みのはじまりでもあります。

日本最北にある道内唯一の公立女子短期大学として、昭和三十五年に誕生した「名寄女子短期大学」は、確かな歩みを続け四十六年の歴史を刻んできました。

昭和六十二年には新校舎が完成。開学三十周年を迎えた平成二年には「市立名寄短期大学」となり、学科名を家政科から生活科学科に改め、男女共学制とし、平成六年には看護学科を開設しました。

そして平成十八年四月、4年制大学が新設され、保健福祉学部栄養学科（入学定員四十名）、看護学科（同五十名）、社会福祉学科（同五十名）、学生数五百九十人（短期大学と合わせ六百九十人）の名寄市立大学がスタートします。

先人の築いた大切な財産を、次の世代にしっかりとつなげていくために、地域とともに歩む「名寄市立大学」が求められています。

4年制の栄養 看護 社会福祉の 3学科を有する「名寄市立大学」



学長 久保田 宏

短期大学として本学が開校したのは、今から遡ること四十六年、一九六〇年（昭和三十五年）であります。今日、短期大学の卒業生は、六千名を超えており、それぞれの職場で高い評価を受けております。

今日まで、本学は日本最北の公立短期大学として運営されてきましたが、時代と地域の要請に応えるため、本年4月から4年制の「名寄市立大学」として新しく出発いたしました。

新しい4年制の大学は、公立では道内唯一、全国でも4番目の「栄養」「看護」「社会福祉」の3学科を有する大学で、「保健・医療・福祉」の分野で活躍する「幅の広い職業人」を養成することを目指しております。この「栄養」「看護」「社会福祉」の3学科で学

部を構成するという利点を生かして「保健・医療・福祉の連携と協働」を教育理念として、「心と体の健康」を追求する大学を目標としております。

そこで本学では、学生さんが志す専門領域の「知識・技能」を修得できる教育に加えて、「保健・医療・福祉」を幅広く理解し、しっかりとコミュニケーションのとれる人材を育成するために、3学科間での「連携教育科目」を設定しております。学科間での学習の場を共有することで相互理解を深め、「連携と協働」に対する意識と素養を育むことをねらいとしております。私はこれを本学の大きな個性・特色としたいと考えております。

古くから大学の使命は、よき専門職としての職業人を育てる、科学的研究を行なう、その国の文化を継承することにありとされてきましたが、私たちはこれに加えて「地域貢献」ということも大学の使命と考えております。それは同時に「地域が教室」「フィールドをキャンパスに」「地域をひとつの大学に」ということで、地域社会を教育・研究に活用することも含ま

れております。

もうひとつ、本学の特色として「少人数教育の実践」があります。これは短期大学としての本学が最も大切にしてきたことで、「面倒見のよい大学」として評価されてきました。「少人数教育」は、学生個々の関心と志向、学習過程と到達度によく配慮し、能力を高めようとするものです。これは今後も続けていきます。

以上、新しく4年制となる本学の教育理念や目標について述べてきましたが、多くの学生さんが、自然豊かな「名寄」の地に来てくださって、一緒に勉学に励むことを夢見ております。

終わりにになりましたが、市民の皆さん、人口約3万の小都市「名寄」が「大学」を持つていることを「誇り」にしてください。この雪の下にこそ、地域の宝があり、代々受け継がれてきたすばらしい地域を守り、「北・北海道」の名が、「保健・医療・福祉の質の高さ」を示すブランド名になることを期待しております。

今後とも皆様のご支援、ご協力を切に願う次第であります。

熱意と決意が生んだ短大開学

「名寄女子短期大学は、この度、文部省の大学設置審議会で三十五年度から開設することに決定しました。本学は北海道唯一の公立女子短期大学であり、女子に一般教養と密接な関連において家政に関する専門的知識及び技能を授け、良き社会人としての職能人を育成するものがあります。」昭和34年12月15日発行の広報なよる第22号で、「名寄女子短期大学の開設決まる」との見出しで始まる特集の冒頭部分です。

昭和34年8月、市議会議員協議会における短大設立の審議・



昭和34年12月15日発行の広報なよる第22号

検討を経て、10月には市議会での議決、文部省に対する設置認可申請書の提出。11月には名寄女子短期大学設立期成会を設置。同月、文部省大学設置審議会による現地審査が行われ、12月には設立認可の内示がありました。ちょうどこの時期に発行された広報なよる第22号は、同期成会の役員名簿をはじめとして、新校舎の平面図や昭和35年度募集要項など、誌面は短大の記事で埋まっていました。

短大開設の昭和35年、名寄市は地方財政再建特別措置法による赤字再建団体を脱したばかりで、校舎建築には名寄小学校を解体した古材を使い、調理実習室は旧・恵陵高校（当時家政高校）の体育館を改修した材料が使われました。

昭和35年1月に設置認可を受けた名寄女子短期大学の第1期生の入学式は4月20日に行われ、家政科60人の定員に対し64人が入学しました。

道内高卒女子進学率が13%余という時代、人口3万人の小さな自治体に短期大学を設置した開設者、故・池田幸太郎市長の

基盤の美しい街並み、雪質日本一のピヤシリスキー場、道北の医療を支える市立総合病院などと並び、短大は先人が二十世紀に築いた名寄市の財産であり、二十一世紀の世代にしっかりと引き継いでいかなければならない財産です。

少子化と四大志向が増加する時代の流れから、平成12年には短大改革論議がおこり、将来計画検討会議を設置。同会議からは、目ざす短大・大学のあり方、大学と地域と市民の関わり、大学運営のあり方、学生・親との関わりについて意見・検討内容をまとめた答申が出されました。

また、市議会においても短大調査特別委員会が設置され、平成15年9月議会で「市立名寄短期大学の4大化推進について」議決されるとともに、今後の課題として「4年制大学への移行に対する周辺市町村の理解を得ること」「4年制大学に移行された際の運営体制と市民との連携」「時代のニーズに合った学科構成とカリキュラムの研究があげられ、これらを解決することが

名寄市立大学が目指すもの

市立大学		保健福祉学部		短期大学
入学定員 学位 資格・免許	栄養学科	看護学科	社会福祉学科	児童学科
	40人 学士(栄養学) 管理栄養士国家試験受験資格、 栄養士免許、 教員免許(1種)/ 栄養教諭	50人 学士(看護学) 看護師国家試験 受験資格、 保健師国家試験 受験資格	50人 学士(社会福祉学) 社会福祉士国家試験 受験資格、 教員免許(1種)/ 中学校社会、 高校(公民・福祉)養護学校	50人 保育士免許 幼稚園教諭免許 (2種)

短大四十六年の歩み

- 昭和35年(1960) 4月 名寄女子短期大学開学
(家政科、入学定員60人)
- 昭和36年(1961) 4月 栄養士養成施設の課程指定
- 昭和41年(1966) 4月 入学定員を80人に変更
- 昭和42年(1967)10月 短大を廃止し道立の看護婦養成所に移管する「道立移管問題」背景には財政問題
- 昭和48年(1973)10月 体育館新築落成
- 昭和55年(1980) 4月 入学定員を変更100人となる
- 昭和57年(1982) 6月 道北地域研究所開設
- 昭和59年(1984) 4月 家政科児童専攻課程(定員50人)を設置、入学定員150人
- 昭和62年(1987)12月 新校舎完成移転
- 昭和63年(1988)11月 体育館新築
- 平成 2年(1990) 4月 市立名寄短期大学に名称変更男女共学制となる
- 平成 3年(1991) 7月 短大振興協議会設置
- 平成 6年(1994) 4月 看護学科設置、生活科学科との2学科制となり児童専攻課程で幼稚園教諭免許と保育資格の同時取得が可能になる
- 平成 7年(1995) 3月 新学生寮アルカディア落成
- 平成10年(1998) 6月 将来構想策定委員会設置
- 12月 自己点検・評価委員会設置
- 平成12年(2000) 5月 将来計画検討会議設置
- 平成17年(2005)12月 名寄市立大学設置認可



新校舎建設工事現場(平成16年12月)

大学敷地内全面禁煙
 本学は、保健・医療・福祉等に携わる専門職業人を養成する大学として「喫煙する本人のみならず、他人の健康に害を及ぼす喫煙を見逃すことができない」との立場から検討を重ねてまいりましたが、今月からキャンパス内では学生・教職員・学外を問わず全面禁煙としましたので、皆さんのご協力をお願いいたします。



熱意と決意で短期大学を長
開設した池田幸太郎市

熱意は、現在では想像ができない開設までの多忙な日程を乗り越え、その決意は昭和38年に起こった短期大学の廃止問題をも乗り越え、名寄市立大学の礎を築いたので。

大学校章



開学間もない昭和38年(1963)に、学内からデザインを募集して創られたバッチ(写真上)は、名寄の「ナ」を變形して4つ組み合わせてナヨロとしたもので、中央には池田市長の揮毫による文字が。昭和41年(1966)にできあがった校旗では現在の形(写真下)に。

地域に根ざした大学づくりの進展と地域の発展につながるものとされました。
 平成16年には新校舎建設工事に着手。平成17年4月には新名称が「名寄市立大学」と決まり、平成18年4月開学を迎えました。
 名寄市立大学は、公立では道内唯一、全国でも4番目となる栄養・看護・社会福祉の各学科が連携をとりながら、実践的な人材を養成する大学で、学科構成などは前頁表のとおりです。
 大学の基本理念は 地域社会

から信頼される大学(地域社会が必要とする地域密着の大学・地域住民が大学を育て、住民参加の開かれた大学) 保健・福祉・医療の現場と地域に貢献する大学(地域に貢献する人材育成・能力を引き出す教育) 学生中心の大学(学ぶ人に学びやすい環境・主体性、創造性、自立性を育む環境)とされており、教育の基本方針として、一つは「連携教育の推進」、二つは「少人数教育の実践」、三つは「地域社会の教育的活用」を掲げ、3学科で学部を構成することの利点と、これまでの短期大学としての教育実績を踏まえ、そして「地域に立脚する大学」を目指します。